

学校だより

最後の運動会

小学校六年 代田 蒼



小学校最後の運動会、一番がんばったのは組体操です。

練習をふり返ると、体力的に辛く苦しいことがたくさんありました。それは、上に人をのせて土台として支えることが多かったからです。また、長雨で外での練習があまりできませんでした。でも、練習から完成度よくできていたので、あまり不安は感じていませんでした。むしろ自信がありました。一日延びましたが、本番を迎えました。組体操が始まりました。最初の方の技は全て完成しました。途中、前かがみになった友だちの腰の上に立ち上がる技は、練習で失敗が多かったので不安もありましたが、完璧にできました。続いている技も全て成功していきましました。後半の四段の伎は、見た目は単純ですが、最も難しい技のうちの一つです。少しのゆれもおこ



さないように気をつけました。完成の気持ちよさが、右、左のさけび声にも表れたと思います。三段・四段の櫓、立体ピラミッド等の大技も決まりました。技は全て完成したし、何よりも、移動が、真剣に素速くできました。自分自身に感動できる運動会でした。

たくさん笑顔が咲いた清明祭

中学校三年 大平綾香



第四十五回 清明祭は、「喜努愛楽くみんなの笑顔を咲かせよう」という生徒会スローガンのもと、開催されました。この日を迎えるまでに、全校で様々な準備を行ってきました。今年度は、例年より夏休みが長く、登校日数がとても少なく焦りましたが、その中で、会員全員で協力し、準備を進めてきました。

私がこの二日間を通して一番心に残っている企画は、実行委員企画の「しもじょうツムツム」です。ペットボトルのタワーをつくり、テーマソングのAIのハピネスにあわせてダンスをしました。リハーサルで一回も成功することが出来なかったペットボトルタワーも、本番で成功させることができ、会員全員で力を合わせることにすごさを実感し、とても感動しました。他にも、「感動」をテーマにした意見文。全校で盛り上がった体育祭や吹奏楽部の発表。クラス、学年の歌声が響いた音楽祭。



清明祭を明るくしてくれたアークなどどれも楽しく思い出に残るものとなりました。会員全員で努力し、喜びや悲しみを分かち合える、正に喜努愛楽となった二日間だったと思います。